MARITIME　INTERNATIONAL 2014　　第１号　2014/4/27

〈東京都立大島海洋国際高等学校　　TEL:04992-4-0385　FAX:04992-4-1764〉
メールアドレス：S8000531@section.metro.tokyo.jp
HP アドレス：http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/index.html

新学校長着任

校長　千葉　勝吾

４月１日より、大塚校長の後任として着任しました。大島には３年ぶり勤務ですが、海洋国際科の高校はもちろんはじめての経験ですので、現在はすべてが新鮮で学ぶ毎日です。

ここであらためて、本校の歴史と精神を述べてみると、平成十八年に、学科改変により東京都立大島海洋国際高等学校として開校し、海を通して世界を知り「国際社会でリーダーとして活躍する国際人の育成」という明確な目標を持ち、生徒も教職員も、学校全体が一丸となって、その目標実現に向けて努力しています。

そして、その目標の実現にむけて、三つの校訓を掲げ、日々の教育をおこなっているわけです。

校訓の第一は「誠実」です。あらゆる場面でいつでも登場するこの言葉は、やはり高校生活、いや人生においても最も忘れてはならない言葉です。たとえどのような状況に陥ろうとも誠実であること、このことが最も大切です。誠実であろうとする意欲は、客観的な現状認識と明確な目標設定があってはじめて沸き起こるものです。漫然と過ぎて行く日常には、誠実に生きるエネルギーは生まれません。社会の一員となる責任感と自覚によって、自分に高い目標を掲げ、そこに到達するためには何をすべきか、どんな手続きを踏んで行けばよいのかをしっかりと把握し認識することが重要です。

誠実であること、全力を尽くす姿を見せることが、必ずしも高く評価されないかのような風潮の中で、皆さんには、人間としてごく当然であるはずの「誠実である」という姿勢を、本校で貫いてほしいと思います。学習、行事、部活動、進路目標、どんなことであれ、目標に向かって全力で努力する誠実な姿は、自分自身を高めるだけでなく、共に励まし高め合う仲間、一生の友を作ることにも繋がります。

第二は「礼節」です。一人だけで生きて行ける人間はいません。誰かに何かをいただいたり、助けられたりした時、私たちは、感謝の気持ちを表しますが、自分が置かれている状況そのものへの感謝の気持ちも忘れてはならないことです。自分を生み育ててくれた親、支えてくれる家族、指導いただいた先生方、共に過ごした仲間、あるいは、平和に暮らせる日々、好きな食べ物や音楽のある生活、さらには、先ほど話した努力や挑戦を陰で支えてくれる人々や物事すべてに対し、素直に謙虚に感謝の気持ちを持つことが大切です。昨年の土砂災害の際に改めて発揮された本校の誇るべき文化であるボランティア活動も、こうした感謝の心が輪になってお互いに結びついたものと考えられま

す。

また、皆さんが、日本人として国際社会で活躍する人材となる基礎を築いていく上でも「礼節」を心がけることを期待します。知・徳・体のそれぞれが、高い次元においてバランスの取れた人材、すなわち、正解のない問題に敢然と立ち向かい解決しようとする学力、異なる環境の人々とも友好関係を築く豊かな心とマナー、あらゆる困難を乗り越える体力や精神力、これらを備えた人材へと成長するということです。

最後の言葉は「協力」です。高校の三年間は、中学校の三年間とは比べものにならないくらい、様々な挑戦への可能性が広がります。特に、本校は、学習活動は言うに及ばず、学校行事、部活動、生徒会活動、国際航海や交流、海外研修、ボランティア活動など、他の高校とは一線を画す様々な特色ある教育を展開しています。皆さんには、この比類ない恵まれた環境を存分に活かし、あらゆる機会を自分の挑戦の場として、高い目標の実現に向かって全力で取り組んでほしいと思います。

しかし、挑戦は個人の力によるものだけではなく、むしろ、他者と協力することが重要です。これまで自分が創っていた限界線、頑張るとはこのくらいだろう、楽しさ、辛さとはこんなものだろうという枠を取り払い、今までの自分から脱却、飛躍して、新たな自分を知る、自分の可能性を広げるには他者との協力なしに成し遂げることはできません。このことを忘れずにいて欲しいと思います。

入学式でもお話しましたが、この「誠実、礼節、協力」を念頭に毎日の学校生活をおくることを望みます。

入学式

４月８日、第９回入学式を行いました。新入生７９名を迎え、厳かに式典を挙行しました。新入生の宣誓を掲載します。

あたたかな春のおとずれと供に、私たちは大島海洋国際高校の入学式を迎えることができました。本日は、このような立派な入学式を行っていただきありがとうございます。

私たち７９名の新入生は、先生方や先輩方、新しい仲間に囲まれ、少しの緊張と不安もありますが、夢と希望を胸に、これからの高校生活を楽しく過ごしていきたいと思っています。

昨年の１０月１６日、台風により、大島は大きな被害を受けました。災害が起き、はじめて、これまであたりまえになってい

た、友達と笑顔で会話する事や、学校で授業を受けることがとても幸せなことだと気づきました。また、たくさんのボランティアの方が来てくださり、思いやりの心や、優しさを感じ、たくさんの勇気をもらいました。それゆえ、高校では今まで以上に仲間を思いやり、毎日の生活に感謝していくことが大切だと思います。

これから始まる３年間は、大島海洋国際高校でしか学ぶことのできない航海学習や寮生活など、貴重な経験がたくさんできます。その中で、辛いことや苦しいこともあると思いますが、仲間と支え合い、協力し合いながら成長していきたいと思います。そして、失敗を恐れず新しいことに挑戦し、何事にも積極的に取り組むことを誓います。

最後になりましたが、先生方や先輩方、保護者の皆様には、たくさんお世話になることと思います。どうぞ私たち新入生をよろしくお願いします。

平成２６年４月８日　　新入生代表　　宮崎　怜

対面式

４月９日、対面式がおこなわれ、新入生代表として穴原 新 君が代表の挨拶を行いました。

対面式に引き続き、生徒会主催のオリエンテーションがあり、歓迎のアトラクションと各部の紹介が行われました。セーリング部は体育館にディンギーを持ち込むなど、各部工夫を凝らしたパフォーマンスを展開しました。（４月２２日現在１年生の部活加入率は９９％です）

バス停留所名変更「海洋国際高校前」

４月１日より、大島バスの停留所の名前が変更になりました。学校前が「南高校」から「海洋国際高校前」に、ドミトリ入り口の「セミナーハウス入り口」から「大島町陸上競技場」に変更になりました。港から学校に来る時には、大島町陸上競技場行きに乗車していただきます。

テニス部遠征報告

第５４回東京都高等学校テニス選手権大会が４月１３日にシングルス、４月２０日にダブルスという日程で行われました。３年生にとっては最後の個人戦ということで、放課後の活動に加えて、毎日のように朝練にも取り組み努力してきました。

形になってきたプレー、これからの課題…。多くのものを吸収してくることができたのではないかと思います。このチームで戦う残り２大会の団体戦で最高のテニスができることを期待しています。

【今大会のチーム最高成績】

女子シングルス　船木真希子　３回戦進出

女子ダブルス　　荒木・船木　３回戦進出

沖ノ鳥島航海学習について

平成 26 年 3 月 30 日に発生した沖ノ鳥島における桟橋本体の引出し作業中の転覆事故で亡くなられた方の御冥福をお祈りします。

4 月 11 日より、海洋系 3 年生 11 名で沖ノ鳥島観測航海学習を行う予定でしたが、7 月に延期する事となりました。理由は、大島丸の船員が 3 名不足していることと、沖ノ鳥島での工事現場での事故です。

大島丸は国際航海を行なう船舶なので、ソーラス条約に基づいたテロ対策を実施しています。船員は 17 名で、その任に当たることになっていますが、定年退職等により、3 名の欠員が生じていました。昨年、東京都教育委員会は、派遣会社と契約して 3 名の方に来てもらうことにしました。昨年は止む無くその体制で運航しましたが、好ましい状態ではないと再三、教育委員会に申し入れて来ましたが、改善はされませんでした。3 月末にようやく、臨時の職員を採用する方向に転換しましたが、直ぐには応募がありませんでした。

一方、3 月 30 日に沖ノ鳥島では、昨年より始まった桟橋建設の工事で、事故が発生してしまいました。船台より引き出した桟橋を曳航する時に、転覆し、５人の方が亡くなり、２名が行方不明となりました。事故現場は大島丸が観測を行う範囲内であり、関係各所に問い合わせたところ、4 月 4 日の時点で、大島丸が観測する時にも捜索活動が行われている見通しがあるとの情報がありました。

総合的に判断し、航海学習の延期を決断しました。7 月に実施する予定です。

離着任の先生方を紹介します

	転出された先生方		着任された先生方	
校長	大塚　健一		千葉　勝吾	
数学	戎　洋明		大島　和人	
保体	大垣　和裕		増子　良太	
養護	金子　順子		吉本　祐子	
HM	齋須　順		中谷　安伸	
HM	田村 真知子		池田　明容	
産休代替	（理科）		原田　研志	
家庭	小俣　絵美	講師	長山 知由理	
	鈴木　佳江	講師		
	宮内　淑子	講師		
物理	秋葉　祐子	講師	成島　亮如	
主事	宇津　彰人		渡辺　麻美	
	鈴木 志津枝		池本　将貴	
用務主事			小湊　教行	
大島丸		甲板員	中林　一巳	臨時職員
		司厨員	堀越 龍太郎	臨時職員